

「そんなあなたたちに……ご褒美をあげちゃおうかしら♥」

ふっふっふっ……♥

とろっ♥

凝光の艶めかしい笑みに
男たちが歓声を上げた……



超ミニのスカートさたくし上げる凝光に
男たちがびびり寄って行く。

「ふふふ♥
まだよ、焦らないで♥」

くさる...



「んんっ…はあ…んんっ…♡」

はあ…♡

はあ…♡

んんっ…

んんっ…

凝光は男たちの前でオナニーを始める。
ギラついた複数の目に晒されて興奮が高まっていく。



「あんっ…ああ…濡れてきちやう…もっとおもく見てえ♥」

凝光が自分の股間をこね回すたびに
きわどいパンティから愛液が零れていく。



すっかり発情した凝光は男たちによく見えるように
あられもなく脚を開き、腰を突き出してオナニーを続行する。

「はあ、はあ、ああんっ
イイツ…もつとよく見てえ…」



「あーっ…♡…んんんん♡…イウツ…イキそっつ♡…♡」

凝光のオナニーはどんどん激しくなってる。



「はああく〜♡♡♡
ああつ、イクイク♡♡♡
ああつ♡♡♡
ひい♡♡♡」

ほー♡♡♡
ほー♡♡♡

ぐちゃ♡
ぐちゃ♡
ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

かし

かし

パンティ越しでは満足できなくなった凝光が
パンティをずらして愛液まみれのオマッコを晒す。
男たちの吐息が一層荒くなった。



我慢の限界を迎えた男たちが凝光に殺到する。
凝光も嬉しそうに男たちの股間を掴んだ。

ぐっ♡

グッ♡

「あん♡♡もう、がっ♡つ♡み♡す♡び♡♡♡♡」

ん♡♡♡





「んんっ…♡ すっごいガチガチ…
どれだけ溜め込んでるのかしら♡」

「このオチンポ、全部私に
味わわせなさい♡」

はぁっ

はぁ

んん

んん

ドキ

ドキ

んん

んん

んん

んん

男たちが次々とチンポを凝光に押し付ける。
それを前にしてうっとうしと笑う凝光。

ほあっ

ほあっ

「んん…♡ すっごい臭い…♡
ムしたチンポの臭い、たまんないわ…♡」

ふん

「んっ♡ほら…
ミゴいてあげるから存分に気持ちよくなりなさい…♡」

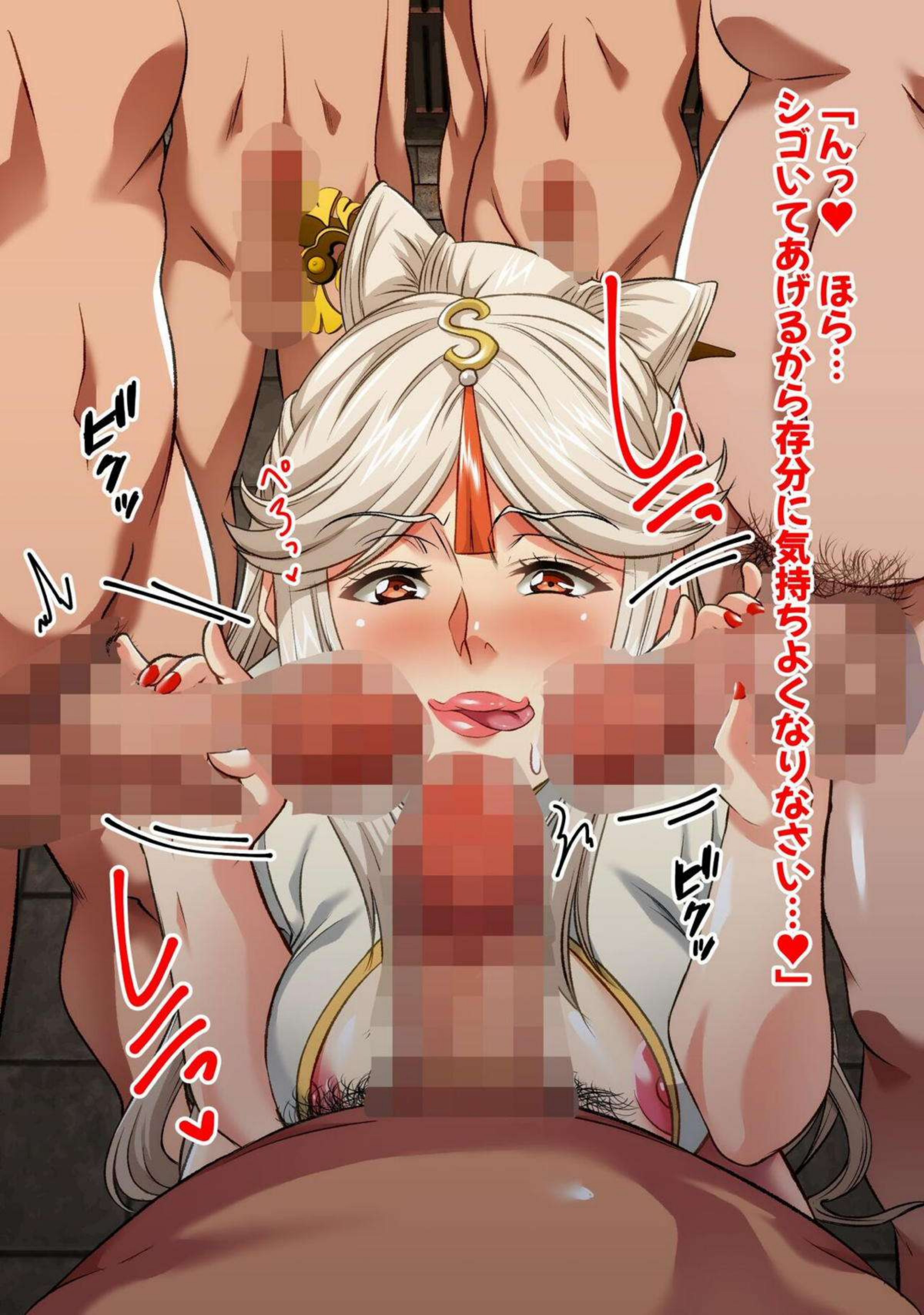
しゅっ

んっ

しゅっ

しゅっ

しゅっ



「んぐうつ!?♡ んぶつ、じゅぼぼつ♡
んもう、ふぐつ、いきなり口に突っ込むなんてえ…♡
じゅる、じゅぶぶつ♡」

あ

あ

「ふぶう〜ッ♡♡♡
んっ♡♡ ザーメンきたあ♡♡♡」

フクッ

ビョッ

ムンッ
ムンッ
ムンッ
ムンッ



「はあ…はあ…♥んもう、何日分溜め込んでたの？…喉にひっかかって…ザーメンに濡れちゃいそう…♥顔もどろどろになっちゃった…♥」

美貌を白濁で汚した凝光が淫乱に微笑む。ー

とろろ

はぁ

はぁ

〇〇〇〇

「ほら…私の身体を自由に…いいわよ」

ドキ

ドキ

凝光の許可が出た途端、男たちが一斉に彼女の肉体に群がっていく。





「んっ…ふああ…♥
いいわっ…おっぱいもアソコも滅茶苦茶にしてえ…♥」

はぁ…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

「んんんっ♡
はあっ♡ あっ♡
そんなにもみくちやにされたらあ♡
ひい〜♡♡♡

ビクッ

男たちの手に滅茶苦茶にされた凝光が
たまらず絶頂してしまう。
マンコから大量の愛液を吹き出す。

びんやみ

ビクッ



「はあ…はあ…はあ…はあ…ひい…♡
もつとよ…もつとめちやんちやんごてえ…♡」

凝光の懇願に男たちの行為は
どんどんエスカレートして…

どん…♡

ちゅ

はー♡

はー♡

ちゅ

「んああっ！ チンポきたあああ♥♥♥
きもちイイとこ当たるううう♥♥♥」

男たちが凝光を羽交い絞めにする。
チンポを挿入されてピストンされる凝光。

ハーンッ

げーっ

げーっ

ハーンッ

すぢゅっ

ハーンッ

すぢゅっ



「まだ足りないのぉ♡
もっともっとみんなで私を輪姦しまくってえ♡」

ゴックン

ほーっ...

ほーっ...

「はあ……はあ……
ザーメンじゅじゅっ…
オマンコジーンジーンするのぉ…♡」

ゴックン

ゴックン



「ピュッ、ピュッ...♡
んううっ、もっど、もっど突いてえ♡
奥までえぐっでえ...♡」

ピュッ

おん

ズッ

ズッ

おん

おん

おん



「あっ♡ あっ♡ 気持ちいい♡
んひゅううっ♡ 気持ちいいのくる♡
オマンコキュンキュンしちやううっ♡」

はぁっ♡

はぁっ♡

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ



「はあ…♥ はあ…♥
イイ、中出しすつごくイイ…
まだ足りないのお…オチンポもつと頂戴…♥」

けみ

けみ

んんん

「じゅる、じゅぼぼっ、じゅささっ♡
うれひい…オチンポいっぱい…♡」

ちゅんっ
ちゅんっ

しゅんっ

すちゅんっ♡

すちゅんっ♡

すちゅんっ♡

チンポに囲まれた凝光が嬉しそう微笑む。
すっかり快楽に溺れていた。

しゅんっ

「ふうーっ♡
おっぱいもオマンコもきもひいい♡
このままザーメンぶっかけられたい♡
出してっ♡♡♡
出してええ♡♡♡」

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

「はあー……♡♡♡ はあー……♡♡♡
幸せえ…… たくさんのチンポに犯されるのあ……♡
きもちいい……♡」

ほめ……

ほめ……

どろろ……

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ





「んはああッ♡ オマシコとお尻ッ♡♡
きもちイイッ♡ もつと♡♡ もつと抉ってえ♡
奥うツ♡♡ きもちイイのおおおッ♡♡♡」

ハッ
ンッ
ハッ
ンッ

ぬほっ
ぬほっ
ぬほっ

ハッ
ンッ
ハッ
ンッ
ハッ
ンッ

はめっ
はめっ

ハッ
ンッ



ゴックン♡

ぐぶぶぶ♡

「ひあああ〜♡♡♡♡
イクイク♡♡♡♡ 中出しされてイク♡♡♡♡
ひいっひいっ♡♡♡♡」

ん

ん



「んおおツ…!? おひっ あひいっ!
お、おひりにもツ♥♥ 出されてららもつうツミ!?
イグうっ♥ おひりもイグう~~~~!!」

バ
ヤ
ン

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん



「んおオツ♥♥♥ まだオチンポ固いい♥
ゲームンぐちよぐちよのオマンコとお尻ツ♥
まためちやくちやにされりゅうう♥♥♥
ひゅーい♥♥♥ ずぼずぼされてごりゅううう♥♥♥」

くっほっ

すちゅっ

くっほっ

すちゅっ

すちゅっ

すちゅっ

すちゅっ

くっほっ

おっほ

かっ

おっほ

おっほ

おっほ

かっ

大量にザーメンを注ぎ込まれた凝光が
嬉しそうに男たちに腰を突き出して見せる。

「あなたたちのザーメンで
お腹いっぱいなの…ひり出すから
よく見ててね…♡」



Hand-drawn annotations in red and white ink are scattered across the lower half of the image. On the left, there are several red arrows pointing towards the woman's breasts and abdomen. In the center and right, there are white squiggly lines and red symbols, including a heart and some stylized characters, likely representing sound effects or emphasis on the muscular areas.

深夜の船の上にながった凝光たち。
ドロドロのマスコを晒して凝光が男たちを誘う。

「今夜の私はあなたたちのマスコ奴隷よ♡
好きなだけ犯しなさい♡」

ほー♡

ほー♡

ヒン♡

ムン♡

ほー♡

♡

「んはああっ♥
オマンコいじられるの気持ちイイ♥
もっとさわわってえ♥」

ゴックン

ぐちゃぐちゃ

ゴックン

ぐちゃ



「おほおおおおッ♥♥♥
アナルぐりぐりされるのこまら♥♥♥
イツちやうちやう♥♥♥」



↑

ゴキウ

ゴキウ

ゴキウ

ゴキウ

ゴキウ

ゴキウ

ゴキウ



「はあ、はあ♥チンポいっぱいうれひい
もつと乱暴にしてえ♥」

ゆっゆっ

ゆっゆっ

パッパッ

パッパッ

パッパッ

パッパッ

パッパッ



「んぐぐ…! らぎぐらみ…♡♡♡
しゅぐら量のザーメンツ…!♡♡♡
あぎぐらツ…♡♡♡」

ゴックン

ゴクン

びん
ん

絶頂した凝光が休む間もなく次の男たちが
マンコとアナルにチンポをぶち込んでいく。

ず
ぐんぐん

「んひいひいッ!? まっでえ…少し…
休ませてえええ…ッ♡♡」



「おっほおおおお♡♡♡くるっ♡
オマンコにもお尻にもザーメン♡♡♡
ぐちゃぐちゃにされてるう♡♡♡
イクツイクイク♡♡♡ イグウ♡♡♡」

ビュッビュッ

びゅん

グッ
グッ
グッ
グッ
グッ

びゅん

ビュッビュッ

びゅん



「はあ〜ッ……♡ はあ〜ッ……♡ おかしくなるぅ……♡♡♡」

ガク

かく

おぼろおぼろ

ヒクヒク

ヒクヒク

ぐったりする凝光にまた別の男たちが襲い掛かる。ドロドロの二穴が休む間もなくほじくり返されていく。

「んっひい〜♡♡♡
うれひい♡♡ もっと、もっとおかひてえ♡
わらひの穴♡♡ 使い倒してえ〜♡♡♡」

パンッ

パンッ

パンッ

パンッ

パンッ

かっ♡

すちゅっ♡

すちゅっ♡

すちゅっ♡

かっ♡

かっ♡

「ああ…しあわせえ…♡
いっぱいぶっかけられちゃったあ…♡♡♡」

散々輪姦され幸せそうに微笑む凝光。
だが、心はすでに次の乱交の計画へと飛んでいた…



次は鉦山の労働者たちに狙いを定めた凝光。
全裸で男たちを挑発する。

「うふふ♥

あなたたちも溜め込んだモノ、

私にぶちまけなさい♥」

♡♡♡♡



「あはあ♡♡ オマンコきたあ♡♡
お願い、お尻も使つてえ♡♡ こっちも使い慣れてて
気持ちイイからあ♡♡」

マンコにチンポを啜え込みながら、凝光が
嬉しそうな声を上げる。

すちゅ♡

すちゅ♡
すちゅ♡

すちゅ♡

ズル

ズル

「んぎひいひいッ♡♡
おひりきもひいッ♡♡
オマンコと一緒に
ズボズボされるの気持ちいい〜ッ♡♡」

んぎッ!!

んぎッ!

んぎッ!

んぎッ!!

んぎッ!!

「おツ…おおツ…♡♡ はあ…はあ…♡♡
しゅごい…♡♡ しゅごい量…出されちゃったあ…♡♡
ザーメンごころごころ…気持ちイイ…♡♡」

しゅごい

しゅごい

ムネ

がく

がく

がく

「あひいいいッ?
まってえ♡♡♡
はげしッ♡♡♡

おかひくなっちやうう♡♡♡
激しすぎるウ♡♡♡

ン

ハッ
ハッ

すちゅっ

すちゅっ

おっ
おっ

すちゅっ

ハッ
ハッ

おっ
おっ

すちゅっ

「ああん♡くすぐったい♡
あなたもなの？ もう、仕方ないわね♡」

くすぐる♡
くすぐる♡
くすぐる♡

くすぐる♡
くすぐる♡
くすぐる♡

くすぐる♡
くすぐる♡
くすぐる♡

くすぐる♡
くすぐる♡
くすぐる♡

くすぐる♡
くすぐる♡
くすぐる♡

「あひいん!? やだあ♡
そんなに一度に出されたらあ♡♡♡
はひいん♡♡♡♡♡」

ゴ
ク
ク

ゴ
ゴ
ゴ

ゴ
ゴ
ゴ

ゴ
ゴ
ゴ

ゴ
ゴ
ゴ

ゴ
ク
ク

ゴ
ゴ
ゴ

ゴ
ゴ

「ああん…ワキにぶっかけられるなんて…
屈辱だわあ…♡ お返しにもっともっとなぐり取ってあげるから
覚悟しなさい♡」

んんん…♡

んんん…♡

おっやあ…♡

んんん…♡

「んふっ…♡れる、れるお…♡
早くオマンコもチンポで塞いでえ♡♡♡」

んふっ♡
んふっ♡

んふっ♡
んふっ♡

んふっ♡
んふっ♡

んふっ♡
んふっ♡

んふっ♡
んふっ♡
んふっ♡

「んはあ♡♡ あっつい♡♡
ぶっかけられるの好き♡♡♡」

らびびん

あつ

あつ

あつ

「あひいーっ♡♡♡♡
お尻とオマンコにもきたあー♡♡♡♡
イグうーっ♡♡♡♡」



「やだあ♡ 恥ずかしい♡ 見ないでえ♡」

男たちに囓し立てられ、放尿させられる凝光。
それを欲望にギラつく目で見つめる男たち。
乱交はまだまだ終わりそうになかった…

























